

映 画館で映画を観たときに、みなさんはパンフレットを購入されるでしょうか？ スタジオジブリ全23作品のポスターとパンフレットが、東宝より「ジブリ Movie Collection」として公開当時のまま完全復刻されました。映画パンフレットは本来劇場で販売されるために作られるものなので、美術館での取り扱いが初めてです。

図書室でパンフレットの見本を準備すると、20～30代の若い方たちがよく手に取り、自分が生まれる前、もしくは小さかった時に公開された作品のパンフレットを楽しそうにご覧になっています。「風の谷のナウシカ」が公開されたのは1984年、今から40年近く前です。広告ひとつとっても新鮮に感じられるのかもしれない。また、パンフレットを買わなかったことを後悔していた人、全作品のパンフレットを揃えたい人、美術館来館の記念にするなど、いろいろな年代の方が、いろいろな理由で購入されています。書籍をはじめ映画の情報を得る方法は他にもあると思いますが、「ジブリ Movie Collection」の反響を間近で見て、映画パンフレットは映画に直結する思い出の品なのだと改めて思いました。



季刊**トライホークス** 2023年 | 70号

発行日……2023年2月24日 | 発行人……中島清文

発行所……徳間記念アニメーション文化財団

東京都三鷹市下連雀1-1-83 三鷹の森ジブリ美術館

編集……石光紀子 鈴木智子 塚原瑞穂 | デザイン……川島弘世

印刷……図書印刷株式会社 | 非売品

本棚より

トライホークスに置かれているおすすめの本を紹介していきます。
トライホークスの本棚の中の一冊から、みなさんの本棚の一冊にしていただけたら嬉しいです。

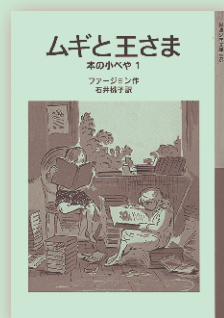
ムギと王さま

私 が小さい頃、母は寝る前に様々な本を読み聞かせてくれました。その中で今でも私にとって大切な作品のひとつが、エリナー・ファージョンの『ムギと王さま』です。『ムギと王さま』は、ファージョン自らが選んだ短編をまとめた傑作集です。寓話風のもの、昔話風のもの、素朴な子どもたちのお話などバラエティに富んでいます。

私のお気に入りのお話のひとつは「貧しい島の奇跡」です。貧しい島で暮らす少女ロイスと、「たのしみの島」を持つ女王。相反する立場にいる二人の心が、お互いの深い悲しみと真心とによって繋がりをもち、島の危機を救う奇跡を起こします。

ファージョンの描く子どもの姿は、読む側が切なくなるほどの一途でいじらしい姿が印象的です。それは読者自身も子ども時代に経験したようなものであり、読んでいて胸に迫るものとなっています。そこには、子どもへの愛情のある眼差しと合わせて、感じやすく傷つきやすかったファージョン自身の子ども時代が反映されているように思われます。ファージョンの作品は軽やかでロマンチックな雰囲気ですが、物語の中心には生きていく中での寂しさや苦しさがあります。その苦しさをそのまま生々しく描くのではなく、美しい言葉で包んでいるからこそ、物語の魅力が読む人に優しく届くのでしょう。

『ムギと王さま』を読み返すたび、小さい頃を思い出したり、大人になった今だからこそ心に染みる言葉を見つけたりします。私の人生に寄り添ってくれる、宝物のような一冊です。



ムギと王さま

本の小べや1

作…ファージョン

訳…石井桃子

岩波少年文庫 792円

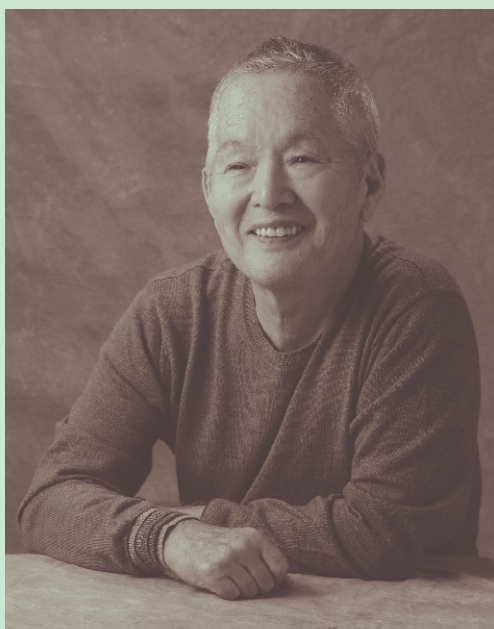
◆本の小べや1〜2
2巻目のタイトルは
「天国を出ていく」

内田 麟太郎

Rintaro Uchida

夢中になって読んだ本

自らを「^{えことば}絵詞作家」と称される内田麟太郎さん。内田さんの原点である「杉浦茂漫画」は、宮崎駿監督や鈴木プロデューサーの読書歴の中にも出てきます。今回、たくさんの人を夢中にさせた杉浦茂漫画をはじめ、絵本や童話を紹介していただきました。絵と言葉の美しい関係が描かれていると語られたこれらの本を、もう一度じっくり読みたくなりました。



* * * * *

わたしが生まれたころ、日本とアメリカは戦争をしていた。そして故郷大牟田(福岡県)は日本一石炭を掘っていたから、アメリカの空襲をたびたび受けた。当時は、機関車も汽船も石炭で動いていたからだ。町は鉄筋コンクリートのデパートと市役所だけを残し、ことごとく灰になってしまった。

そんな時代だったから、戦後すぐの急でしらえの学校には、図書室などなかった。職員室に幅150センチほどの棚が二段。上に『エジソン』や『二宮金次郎』などの偉人伝。下段に『桃太郎』や『かぐや姫』などの「講談社の絵本」があるだけだった。順に読んでいったけれども、わくわくしながら読んだ記憶はない。

わくわくする本は、市の子ども専用図書館にあった。専用といっても子どもを特別扱いしていたのではなく、取り急ぎ空き倉庫を借り開館したものだったのだろう。窓は鉄格子のある小窓がひとつ、裸電球のうすぐらい部屋だった。倉庫だったんだもの。

でも、その倉庫にはわくわくがひしめいていた。『鉄仮面』『三銃士』『宇宙戦争』『透明人間』『里見八犬伝』などなど。わたしはいそいそと通いつめた。

そのころ、担任の大石先生が『ノンちゃん雲に乗る』(石井桃子)を、毎日、少しずつ読んでくださった。(ふうたんぬるかぁ)。拝聴しながらも少年は心でつぶやきつづけた。「ふうたんぬるか」とは方言で、しまりが無いということ。正義の味方は出てこない。悪漢は出てこない。ちっとも、はらはらどきどきしなかった。大石先生には申しわけなかったけれど(『少年探偵団』(江戸川乱歩)がおもしろかもん)と、よい子にあるまじきことを、つぶやいていた。どうやらわたしは文学少年ではなく、ただの少年だったようだ。

そんなわたしの愛読書といえば杉浦茂さんの漫画だ。杉浦茂ではなく杉浦茂さん。それほど好きだった、のである。でも、この一冊ではなく、どの漫画も面白かった。ストーリーもめっちゃくちゃ。絵もめっちゃくちゃ。でも、そのめっちゃくちゃには自由があった。自由の風が大笑いしながらふいていた。

そのでたらめと、めっちゃくちゃな絵がどんなに上手かったか。それをシュルレアリスムとナンセンスと呼ぶのだと知るのは、高校生になってからだった。ああ、小学生ワタシは、前衛芸術に出会っていたのである。子どもの感受性はすごい。

むろん、わたしは知っている。このコーナーで

漫画などを推してはいけないことを。でも、大人には嘘をつけても、子どもに嘘をついていいわけではない。

わたしが夢中になって読んだ本は、漫画の『猿飛佐助』。むろん杉浦茂さん。そんなわたしであったからか、生まれて初めての絵本はナンセンス絵本『さかさまライオン』（童心社）だった。絵はあこがれの長新太さん。ナンセンス絵本、ナンセンス漫画一筋にお仕事をされた天才だ。いまでも長さんと過ごした時間を思い出すと、宝の時間だったんだなあと感謝しないではいられない。

それからわたしはいくつかのナンセンス絵本を出していただいた。西村繁男さんと『がたごとがたごと』（童心社）、荒井良二さんと『うそつきのつき』、高畠純さんと『ワニぼうのこいのぼり』（文溪堂）などなど。

み～んな杉浦茂漫画との出会いが始まりだったと思う。もちろん、こんなわたしでも、あまんきみこさんの『車のいろは空のいろ』が大好きだ。人々のおだやかな幸せを願う詩がある。できることならば自分の絵本にも、詩があってほしいと願っている。ナンセンスユーモアも、また詩のひとつだから。

杉浦茂さんと長新太さんに教えられた道をわたしは歩いて行った。「ここからはひとりで歩いて行きなさい」「はい」とうなずき。楽しい道だった。「おお!」と思わず声の出るうれしい道だった。

『わたしのワンピース』西巻茅子。なんとおしゃれな絵本だったのだろう。

『ねこのごんごん』大道あや。命が祝福されていた。ありのままで。色も筆遣いも命があふれていた。

『もこ もこもこ』文・谷川俊太郎／絵・元永定正。詩と現代美術のステキな結婚だ。絵本作家志望者におすすめの一冊です。

『ちへいせんのみえるところ』長新太。詩に満ちあふれているナンセンス絵本に、わたしはボーゼンとなった。いいなあ。

元氣な命は身も心も勝手に成長していくものだと思う。身長のように（わたしはすこぶる小柄ですが）。漫画に夢中だった少年ワタシは、中学校で絵に出会い、詩に出会い、それらの本を夢中になって読んでいった。そして気がつくときと絵本の世界にいた。

漫画が、命が、運んでくれたものを思う。

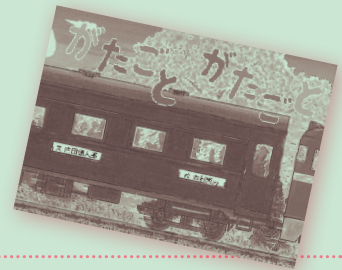
いまでもわたしは漫画を読む。だれを？

教えませ～ん。

うちだ りんたう

1941年福岡県大牟田市生まれ。絵本に『さかさまライオン』『こわくない こわくない』『おひででだっこ』『なくのかな』『たたたん たたたん』（童心社）「おれたち、ともだち!」シリーズ（偕成社）『ようちえんがばけますよ』『とろとろ』（くもん出版）、紙芝居に『ながぐつ ながぐつ』『おひるねですよ』（童心社）等多数。

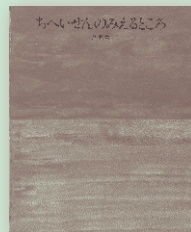
トライ
ホークス
の本
がたごと がたごと
文…内田麟太郎
絵…西村繁男
童心社 1,430円



杉浦茂ワンダーランド5
猿飛佐助*
作…杉浦茂
ペップ出版 絶版



ねこのごんごん
さく…え…大道あや
福音館書店 品切重版未定



ちへいせんのみえるところ
作…長新太
ピリケン出版 品切重版未定

- ◆車のいろは空のいろ！
白いぼうし
作…あまんきみこ 絵…北田卓史
ポプラ社 1,100円
◆車のいろは空のいろ！～3
- ◆わたしのワンピース
作…西巻茅子 こぐま社 1,210円
- ◆もこ もこもこ
作…谷川俊太郎 絵…元永定正
文研出版 1,430円



星空観望会2022

2022年11月美術館で星空観望会が行われました。2019年に行った「美術館お泊り会&星空観望会」以来4年ぶりです。今回は「みたか太陽系ウォーク実行委員会」の主催で行われ、子どもから大人まで62名が参加しました。

美術館に入館し館内見学の後、閉館と同時に参加者の方々が集合したのは映像展示室「土星座」です。美術館のオリジナル短編アニメーション「星をかった日」の鑑賞と国立天文台の梅本智文さんによる星の特別解説があり、その後、星を見るために井の頭公園西園に移動しました。

国立天文台が開発した“Mitaka”は、時間や場所を自由に移動し、宇宙にひろがる星々を見ることができるソフトウェアです。スクリーンに映し出された宇宙の中を、木星も土星も飛び越えて、太陽系の端にある冥王星まであっという間に移動できます。「太陽を7cmとすると、地球はどこにある?」「冥王星はどこだろう?」梅本さんの質問に、子どもたちが元気に答えていました。

美術館隣の西園では、星空案内サポーター“星のソムリエ”のみなさんが、反射型望遠鏡を6台と電子望遠鏡1台を準備してくれていました。「アンドロメダ銀河M31」「プレアデス星団(すばる)」「こと座イプシロン星」「木星」「土



井の頭公園西園にて、星のソムリエのみなさんが望遠鏡を準備している

星」「月」それぞれの星に焦点を合わせた望遠鏡の接眼レンズを覗くと、木星のきれいな縞模様や土星の環、はるか遠くにある星がくっきりと見えます! 19時を過ぎた頃には東の空から火星も昇ってきて観望会はさらに盛り上がり、当初40分の予定が終わってみると70分近くたっていました。星を探して、こんなに真剣に夜空を見上げたのは久しぶりでした。

美術館では今までに星空観望会を4回行いましたが、そのうち2回は天候不良のため星を見ることができず、映画上映と星の特別解説のみでした。今回、一番気になっていたのは天気のこと。イベント前の一週間は何度も何度も天気予報をチェックしていました。秋は惑星を見ることが出来る季節でもあり、晴れたことは本当に感謝しかありません。美術館と映画、そして星の観察。地域の方々と、またいつの日か楽しいイベントを行えたら嬉しいです。

トライホークスでは、国立天文台の梅本さんに「星」にまつわるおすすめの本を教えてくださいました。その中から二冊、ご紹介したいと思います。

一冊目は『月まで三キロ』です。梅本さんが一番最初に書名を挙げ、「心の中にぽっと温かな火が灯され一歩を踏み出す勇気やきっかけとなる、そんな話なんです。僕は月まで三キロの場所まで実際に行ったんですよ」と熱く語られていました。死に場所を求めて偶然乗ったタクシー、運転手に誘われて訪れたのは……。表題作の「月まで三キロ」を含む6編の短編が収められています。

二冊目は『たくさんふしぎ 石は元素の案内人』です。空や地面や水、目に見えるあらゆるものが90種類の「元素」との組み合わせでできていることを、写真や図で丁寧に説明しています。梅本さんが自分でもやってみたくなったのは「銅を取り出す実験」だそうです。孔雀石をガスバーナーで熱すると、鮮やかな緑色の石が10円玉の色をした金属に変わる様子が載っています。

他にも小説から図鑑、ちょっと難しい宇宙の本も紹介していただき、「星」に関する本の幅が広がりました。機会を作って改めてご紹介できればと思っています。



月まで三キロ
著者…伊予原 新
新潮文庫 737円



たくさんふしぎ
『石は元素の案内人』
2022年8月号
文・写真…田中陵二
福音館書店 品切重版未定